



鳥巢 義文
南山大学 学長

とりす・よしふみ氏

- 1954年生まれ
- 1982年 南山大学大学院文学研究科神学専攻博士前期課程修了(神学修士)
- 1990年 ウィーン大学カトリック神学部博士課程修了(神学博士)
- 1992年 南山大学文学部(現:人文学部)助教授
- 1998年 南山大学文学部(現:人文学部)教授
- 2000年 南山大学人文学部教授、人文学部キリスト教学科長
- 2008年 南山短期大学学長、学校法人南山学園理事、学校法人英知学院理事
- 2016年 南山大学大学院人間文化研究科長
- 2017年 南山大学学長

One Campusをより一層の国際教育を推進

南山大学は、南山学園の母体であるカトリック神言修道会(以下、神言会)が、1946年に設置した南山外国語専門学校を前身としています。大学は1949年に1学部4学科(文学部英文・仏文・独文・中国文)でスタートしました。以来、「キリスト教世界観に基づく学校教育」を建学の理念とし、「Hominis Dignitati(人間の尊厳のために)」という教育モットーを掲げています。

ミッションスクールの多くが、理念や教義を象徴する校名を付す中、本学は南山(なんざん)を学校名にしています。学園創立者ヨゼフ・ライネルス神父が1932年に中学校を設立した時、地域に根ざした名前にしたいと思っていました。発祥の地が南山(みなみやま)と呼ばれていたことから、地元知識人の助言もあり、唐の韓愈がその勝景を詠った「南山詩」の名山、李白が「南山之壽」でその堅固さを称えた名山である南山(なんざん)になぞらえ、永久の繁栄の願いを込めて南山と名づけました。

8学部17学科を擁する総合大学へ

1952年に社会科学部を設置し、1960年に経済学部へ改組、1963年に外国語学部、1968年に経営学部、1977年に法学部を設置してきました。大きな教育改革のきっかけは、1995年に南山学園が、名古屋聖霊学園と修道会のつながりで法人合併したことです。これを機に2000年、南山大学瀬戸キャンパスを開設し、総合政策学部と数理情報学部(2014年4月、理工学部に変更)を設置しました。理工分野の学部の設置には、神言会創立者ヤンセン神父が語学と数学教育を念頭に置いていたことが背景にあります。

2007年には、20年後の将来ビジョンを示した、南山大学グランドデザインを立案しました。ビジョンキーワードは「個の力を、世界の力に。」です。これに基づき、キャンパス統合や新学部設置等を進めてきました。2015年には理工学部を瀬戸から名古屋キャンパスへ移

転し、それに伴いS棟が竣工。2011年には南山短期大学を南山大学短期大学部に名称変更し、名古屋キャンパス移転に合わせR棟を建設しました。R棟には、国際センター、外国語教育センター、外国語のみ使用のワールドプラザ、日本語のみ使用のジャパンプラザ等の施設が集約され、国際交流の新たな拠点が誕生しました。2017年には、国際教養学部を新設し、さらに総合政策学部を瀬戸から名古屋キャンパスへ移転し、全学部の統合が完成しました。現在では、文系・理系の8学部17学科を擁する総合大学となっています。

“人間の尊厳”を根幹とした国際教育

ミッションスクールとして、開学当初より国際教育を核に、語学の南山と呼ばれてきましたが、もう一つ特殊な位置づけとして1974年設置した日本研究センター(外国人留学生別科)があります。外国人学生に1年間にわたり日本語と日本文化を教えるもので、毎年正規の留学生百数十名を迎えています。各学部の留学生も合わせると、二百数十名に上り、キャンパスに留学生が増えたことを実感しています。

2017年からは全学的にクォーター制も導入しました。日本の春スタートは世界の秋スタートとマッチしていません。本学の第2クォーターを活用すれば、海外の大学で6月から実施されるサマーコースに参加しやすくなり、短期留学の派遣・受け入れを増やすことができます。さらにインターンシップ等サービス・ラーニングの可能性が広がります。そのため、全学的に第2クォーターにはなるべく必修科目を設けないような配慮もしていきます。

本学は1952年に採択した教育モットー「人間の尊厳のために」を大切に受け継いできました。「国際」を謳う大学は多くありますが、この“人間の尊厳”を教育の根幹とする点が、本学の国際教育の特色といえるでしょう。外国語はツールでしかありません。世界の人とコミュニケーションをとる際には、相手を思いやるのと同時に、自尊心を持たねばなりません。人間の尊厳

の始まりは、自分が何者かを知ることです。それができなければ、自分の価値を見失い、他者も評価できなくなります。これは日本でも世界でも同じことです。そのため、本学では共通教育科目として、①「人間の尊厳」科目、②宗教科目(宗教論、キリスト教概論)を必修としています。1年生はまず宗教論から学びますが、教義を教えるのではなく、諸宗教の特徴を紹介しながら、世界中の人に共通する幸せや救いの概念が何かを理解してもらいます。なぜ必要なのかというと、世界で多様な言語、文化、宗教等の背景を持つ人々と協働していくための基礎になるからです。

「One Campus」で学生の「自覚・成長・円熟」を目指す

キャンパス統合のキーワードに「One Campus Many Skills」を掲げています。知的・人的資源を一つのキャンパスであらゆる角度で共有できるという発想です。「One Campus」が実現したので、今後は「Many Skills」を具体化したいと思います。

そのため、教職員に自分の持っている能力を再点検して、大学の中でその能力がどう生かせるのかを考えてもらいます。これこそ、自分自身が何者かという問いかけで、学生にも実践してほしいことです。キャンパス統合の初年度はここから始めたいと思います。歴代の南山大学長の中で、私は45年ぶり、2人目の日本人です。入学式では「自覚・成長・円熟」という言葉を胸に一緒に進んでいきたいと述べました。自分が何者か分かれば、自分の希望ややりたいことも明らかになる。そうすれば、留学生を含むキャンパスの中の知的・人的資源を生かして成長していけます。成長は必ずしもスムーズではないかもしれませんが。その時は互いに議論して自分が変わるべきところは刷新し、協働できるところは全体で改革する。そういうプロセスを経て、最終的には大学全体が円熟していき、地域社会また国際社会に貢献していくことが理想です。

